

# 2018 US OPEN JUNIOR

期間：8月26日～9月7日

場所：アメリカ（ニューヨーク）



主 催：全国高等学校体育連盟テニス専門部  
報告者：滋賀県高等学校体育連盟テニス専門部 堀池 保宏

## ＜日本代表遠征団＞

- ・男子選手 白石 光 (秀明八千代高等学校)
- ・女子選手 吉岡 希紗 (三重県立四日市商業高等学校)
- ・団長 石原 弘也 (全国高体連テニス専門部 部長)
- ・監督 金山 敦思 (三重県立四日市商業高等学校 顧問)
- ・コーチ 堀池 保宏 (滋賀県高体連テニス専門部 委員長)
- ・コーディネーター 上田 篤 (アメアスポーツジャパン)
- ・現地コーチ Takashi Zetsu (舌 隆史)

### 【東京合宿：8月26日(日)】

各地より団長、監督、選手ら関係者らが全員ホテルに集合し、すぐに早稲田大学に向かいました。到着後約2時間の練習でしたが、大学トップクラスの同校選手との練習は、とても充実したものとなりました。



早稲田大学にて

### 【東京合宿：8月27日(月)】

早稲田大学にて練習マッチを行い、白石選手、吉岡選手とも大学生相手に互角の試合展開で、USオープンに向けてよい仕上がりを見せてくれました。試合後、吉岡選手はサーブを金山監督から指導を受け調整をしていました。練習後、アメアスポーツジャパンの本社に訪問させていただき、岸野博社長をはじめ、多くのスタッフの皆様より激励をいただきました。選手二人も今大会に対するモチベーションがさらに上がったようでした。

羽田空港出発



### 【東京出発：8月28日(火)】

6時30分にホテルのロビーに集合後、電車にて羽田空港に向かいました。搭乗手続きをして、いよいよニューヨークへ出発します。

### 【NY遠征1日目：現地8月28日(火)】

11時30分ごろに無事にニューヨークのJFK空港に到着し、ここでゼツ(舌)コーチと合流しました。ホテルに荷物を預けて、サンドウィッチなどで昼食をすませ、予選会場に向かいました。今大会より予選会場は、キャリーリードテニスセンターです。天気は快晴ですが、日本と同じく蒸し暑い1日でした。会場には、我々と同じように多くのジュニア選手らも練習していました。

JFK空港到着



キャリーリードテニスセンターにて練習



### 【NY遠征2日目：8月29日(水)】

ゼツコーチの地元であるニュージャージー州のバン・ゾーン公園テニスセンターにて練習を開始しました。緑豊かな公園内にあるテニスコートです。この日は、現地在住のジュニア選手である佐藤央彌(ちかや)選手と女子のAshley Hess(アシュリー・ヘス)選手が合流してくれました。白石、吉岡両選手とも昨日は時差ボケの影響で身体が思うように動いていない状態も見られましたが、今日は2人とも午前中より軽快な動きを見せてくれました。午後から、白石選手 vs 佐藤選手、吉岡選手 vs ヘス選手とのマッチ練習を行い、試合後、それぞれが金山監督やゼツコーチよりアドバイスを受け、調整練習を行いました。



アシュリー・ヘス選手と吉岡選手



佐藤央彌選手

### 【NY遠征3日目：8月30日(木)】

午前中は、試合会場であるキャリーリードテニスセンターにて公式練習を行いました。多くの選手が集まり、コーチやヒッティングパートナーとラリーをしていました。日本の白石、吉岡両名も香港の選手と練習を行いました。午後よりスタッフ全員でグランドハイアットホテルにサインインのため向かいました。IDカードをもらい、明日からの試合に備えて、ホテルに戻りました。



グランドハイアットにてサインイン

### 【NY遠征4日目：8月31日(金)】

#### 〈吉岡希紗選手の1回戦〉

昨日までの暑さはから一転して今日の天候は曇りで気温が大きく下がり、涼しいを通り越して肌寒い1日となりました。いよいよUSオープンジュニア予選1回戦が午前10時より、吉岡希紗選手とF. Sacco(サッコ)(イタリア)との対戦が始まりました。ファーストセット序盤は、吉岡選手が有利に進めていましたが、徐々にサッコ選手が対応するようになり、終盤逆転され、6-4で落とす展開となりました。セカンドセットに入り、ゲーム自体は競るもの、相手の強打に打ちあぐね、ミスが重なり6-0での敗退となりました。



サッコ選手

### 〈白石光選手 1回戦〉

午後から少しあは、暖かさも出てきましたが、やはり曇天で雨の予想が出ている中で 14 時ごろより白石光選手と E. Spizzirri 選手(スピツツィリ)(アメリカ)との対戦となりました。ファーストセットは、今大会第 15 シードである強打のスピツツィリ選手に対して、緩急をつけながら自分のペースで試合を進めていきました。白石選手の対応力の高さを感じながら、5-3 リードのところで降雨による中断となりました。その後、4 時間の中止となり、薄暗くなる中で試合が再開されました。再開後はスピツツィリ選手が持ち前のパワーテニスを展開しながら、逆転され、ついにタイブレークとなり、これを押し切られる形でファーストセットを落としました。セカンドセットは、一時、5-1 までスピツツィリ選手にリードされましたが、持ち前の粘りで4-5 まで巻き返しました。しかし最終的には、6-4 でセカンドセットを落とし、初戦突破はなりませんでした。



スピツツィリ選手

### 【NY遠征 5日目：9月1日(土)】



本日は、終日 U.S.オープンの観戦となりました。多くの日本人選手の応援をするため、まず、最初に観戦したのは、超満員となった西岡・マクドナルド組のダブルス 2 回戦です。相手は、地元のブライアン・ソック組との対戦で、ファーストセットは、6-1 で奪われましたが、セカンドセットになると序盤は西岡組がリードをしながらゲームが進みましたが、地元の大声援を受けたアメリカペアに終盤逆転され、7-5 で敗退となりました。その後、「アーサーアッシュスタジアム」に移動して、超満員の中でフェデラー対キリオスのシングルス 3 回戦を観戦しました。終了後、グランドスタンドでの大坂なおみ選手対サスノビッチ選手とのシングルス 2 回戦の応援に行こうとしましたが、スタジアムから外に退場するのに時間がかかり、その間スマホに大坂選手が 6-0, 6-0 で圧勝した速報が入ってきました。



同じ会場のナイトセッションで錦織対シュワルツマン（アルゼンチン：12シード）の試合を観戦することとなりました。シュワルツマン選手は、たいへん小柄ですが、すごいストロークとフットワークを武器に錦織を序盤から苦しめました。しかし、やはり経験の差でしょうか徐々に錦織が追いつき、突き放す展開となり、6-4、6-4で2セット連取しました。サードセットは、一進一退の攻防の中で7-5でシュワルツマンが奪うものの、第4セットは、錦織が試合の流れを完全につかみ、6-1で取り、ベスト16入りを果たしました。吉岡選手は、金山監督の勧めもあり、同じ左利きのクビトバ選手とサバレンカ選手の試合を観戦して、自分のテニスとの違いを研究していました。また、白石選手はジュニア時代から大きく飛躍したデミノール選手とチリッチ選手との試合を観戦していました。デミノール選手は、2年前にU.S.オープンジュニア予選で望月勇希選手と戦い、現在ではチリッチ選手とフルセット戦う選手に成長したことは、すごいの一言に尽きます。白石、吉岡両選手ともトップ選手の試合から多くのことを学び、世界と自分たちの距離を体感した1日となりました。





### 【NY遠征 6日目：9月2日(日)】

白石、吉岡両選手ともインターハイから全日本ジュニアなど今まで試合の連続であったため、疲労がたまっており、午前中は休息に充てることにしました。午後からは、ゼツコーチにお世話になり、巨大なアウトレットモールにて食事や買い物を楽しみました。

9月2日の日曜日は、朝から「ブラジルDay」でホテル前の6番街がたくさんの出店が軒を連ねており、大変な混雑でした。アメリカは移民の国であることを再認識しました。また、今日は、吉岡選手の18歳の誕生日でした。ゼツコーチに「タイムズスクエア」に連れて行ってもらい、有名な「ハードロックカフェ」で夕食をとりながら、みんなでお祝いをしました。ものすごい人波の中、帰り道に「ロックフェラーセンター」などを見ながら、ホテルに戻りました。

エンパイアステートビル

ロックフェラーセンター



セントラルパーク



タイムズスクエア



### 【NY遠征 7日目：9月3日(月)】

本日アメリカは、9月最初の月曜日「労働者感謝の日」で、多くのお店がお休みする日でした。ニューヨークの街中は、いつもと同じ活気に包まれていましたが、本日は、完全休息日(オフ)とし、各々が自分の時間を持つことができました。また、今日のUSオープンは、ジョコビッチ、フェデラー、シャラポワらの人気選手の4Rとともに錦織対コール・シャライバー戦や大坂対サバレンカ戦が行われます。日本は今日から新学期となり、白石、吉岡両選手も学校の勉強や課題などを自分の部屋で行いながら、USオープンを観戦することとなりました。うれしいことに日本勢が二人とも激戦を制してベスト8に進出する歴史的快挙の日となりました。夕食は和食となり、久しぶりに日本の味を堪能しました。明日は、全員で再びUSオープンの会場に行く予定です。

【NY遠征8日目：9月4日(火)】



本日は再びU.S.オープンの観戦をしました。まず全員で女子ジュニア第1シードの Gauff 選手の試合を観戦しました。大人顔負けの強打を武器に Cader 選手をくだしました。引き続き、男子シングルスの台湾の Tseng 選手の試合でした。フットワークを武器に強打の Henning 選手(南アフリカ)に第1セットこそ落としましたが、ファイナルセットを制しました。同じアジアの選手として見習うところが多い選手でした。次にアーサー・アッシュスタジアムに移動し、デルポトロ vs イズナー戦を観戦しました。ビックサーバー対決となったQFでありましたが、デルポトロがファーストセットをタイブレークで落とすものの、残り3セットを連取し、勝利しました。また、プラクティスコートでは、車いすテニスの国枝慎吾選手、ナダル、セリーナ・ウイリアムスらが登場し、本日の試合に備えていました。間近でトップ選手の練習を見る能够のU.S.オープンの大きな魅力でした。最後にジュニア女子ダブルスの日本人対決となった佐藤さんと川村さんの試合を見て、会場を後にしました。



### 【NY遠征9日目：9月5日(水)】



本日いよいよアメリカ遠征の最終日となり、ニューヨーク観光をさせていただきました。午前中にゼツコーチにご案内いただき、地下鉄に乗り、ブルックリン地区に移動し、ブルックリン橋を歩いて渡りました。そのままワールドトレードセンターへ行き、グランドゼロを見学しました。世界平和についてあらためて考える良い機会となりました。その後、世界経済の中心であるウォール街を歩き、再び地下鉄でホテルに帰りました。午後からは、各部屋で大坂なおみ対ツレンコ戦、錦織 v s チリッチ戦を見ることにしました。そして二人そろってS F進出の歴史的快挙に沸くこととなりました。その後、

ニューヨークでの最後の食事をとり、ゼツコーチにマンハッタンの夜景を見に連れてもらいました。素晴らしい夜景に、日本選手の快挙とともに二人にとっても自分の力で再びニューヨークに戻り、USオープンに出場したいという大きなモチベーションにつながったようでした。



新W T Cビル



ウォール街



ブルックリン橋



### 【帰国：9月6日(木)】

いよいよ帰国のです。長いようであつという間のUSオープン遠征でした。毎日、多くの発見や刺激を受けながら、多くの皆様との出会いとなった10日間でした。ニューヨーク滞在中に最もお世話になったゼツコーチともいよいよお別れです。コーチにJFK空港まで送迎していただき、そこでお別れをしました。日本は、台風21号のため、関西空港が閉鎖されている事や北海道地震で多くの被害が出ていることなどをネットやテレビで知り、とても心配でした。厳しいセキュリティの出国検査を済ませて、空港内で朝食やショッピングをしました。飛行機は、予定通り現地を12:00に出発し、約13時間をかけて日本に無事帰国しました。少し疲れもありましたが、成田空港で遠征団の解散式となり、笑顔でそれぞれの飛躍を誓い、家族の待つ家路へ向かいました。アメアの上田篤さん、東京から全日程でお世話になり本当にありがとうございました。皆様お疲れさまでした。"See you again NY" |



国際連合本部



JFK空港出発



マンハッタンの夜景



U.S.オープンに出場して

吉岡 希紗

この度はU.S.オープンという素晴らしい大会に出場させていただきありがとうございました。私の海外遠征は、これが2回目ということで、あまり経験がなく不安でしたが、団長をはじめ、高体連の先生方、アメアススポーツの方々、ゼツコーチにサポートしていただいたお陰で安心して現地の日々を過ごせました。出発前にも早稲田大学で練習をさせていただき、とても良い調整をすることができました。飛行機には13時間乗っていて、時差も大きく、時差ボケが解消するまでとても大変でした。食生活では、パンが多かったり、ボリュームがすごかったりと、食事の調整が大変でした。現地の練習では、現地のジュニア選手と試合をし、とても良い練習ができ、しっかり調整できたと思います。私にとってたくさんのが初体験でした。

試合当日になると、やはり緊張していました。しかし、楽しみという気持ちもあり、ワクワク感もありました。目標としては、本戦に上がることだったのですが、残念ながら予選1R敗退で終わってしまいました。試合の反省としては、ファーストセットの1ゲーム目は、緊張から入りミスが多いスタートになってしまいました。2ゲーム目からは、段々と緊張が溶けていって、自分からコースについて攻めることができましたが、相手のディフェンスも良く、思うようにゲームは取れません。4-4まで競っていたのですが、最後は取りきれずファーストセットを4-6で落としました。

セカンドセットは、相手のギアが上がってしまい、先に攻められ、自分から攻めることができず、ゲームを取れませんでした。リードをされた時に冷静になるとともに開き直ることができたらもう少し違った展開になったのではないかと反省しています。課題だったサーブの確率は上がったのですが、簡単なミスが相手より明らかに多かったのが、負けの原因であると思います。同時に相手選手のディフェンス力の違いは大きいとも思いました。こちらが攻めていてもなかなか優勢にならず、焦って打ち急いでしまうことが多くなっていたようにも思います。この試合で自分の課題が改めてはっきりしました。

その後、本戦会場でトッププロの試合観戦やニューヨーク観光もさせていただき、今までより海外に興味を持つことができました。トッププロの試合を間近で観たのは初めてで、今までにない感情が湧きました。私は、今後大学に進学する予定です。大学生になりテニスを続けることは、辛いことや苦しいこと、今までより大変なことが多くなると思いますが、今回の経験を生かして、メンタルを強くし、もっと上を目指して頑張りたいと思っています。テニスを続けていく上で第一の目標は、これからもテニスを楽しむことを忘れないことで、次にインカレで結果を残すことです。

来年このU.S.オープンに出場する選手の皆さんには、海外の環境の変化にすぐに対応できるように、色々な対策が必要です。特に海外の食事はどうしても日本と違い、生活のリズムが崩れます。試合では海外の選手は、日本の選手と違った雰囲気で圧をもって戦ってくるので、それに惑わさ

れないことが大切だと感じました。同時に国内と同じように戦える様々な準備が必要になります。是非とも本戦出場を目指して頑張ってください。最後になりましたが、普通では、経験できない日々を送らせていただけたことにあらためて感謝し、これからテニスに生かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。



U.S.オープンを終えて

白石 光

私は、8月29日から9月6日までの約1週間をU.S.オープンに出場するため、ニューヨークに行きました。今回は、全仏オープン、全豪オープンに次いで3度目のグランドスラムの出場でした。全豪、全仏とも、予選決勝で敗れているため、今回のU.S.オープンでは、本戦に勝ち上がりたいという思いがとても強かったです。しかし、結果は予選の1Rで敗退し、悔しさの残る結果となりました。試合当日は、非常に天候が悪く、雨による中断が数回ありました。特にファーストセットを5-3でリードしたところで中断があり、その間に相手選手は、自分のテニスを攻略する策を十分に練っていたようでした。そのため試合の再開後は、相手選手の素早い展開に対応することができず、6-7、4-6のスコアで負けてしまいました。特に守るだけのテニスでなく、もっと自分から積極的に攻撃するパターンを増やせば、勝利に繋がったのではないかと感じています。

今回の遠征において本会場でトッププロの試合を観戦する機会をいただきました。プロの選手は、とにかくサーブが速く、動きも素早い。とにかく、男女を問わず、どの選手もすごくかっこ良かったです。それと同時に、将来自分もこのU.S.オープンの舞台に立ってプレーをしたいと心から強く思いました。さらにジュニアのNo.1選手のプレーも見ることができましたが、決して遠い存在ではなく誰にでもチャンスがあると感じました。

そして来年ここに来る皆さんへのメッセージとしては、「勝つ」つもりで来て欲しいということです。“海外での試合が初めてだから”だと、 “海外の選手はレベルが高い”などと思い込まないで欲しいです。そのような思い込みが自分本来のプレーができずに負けてしまうことにつながります。自分の力を出せずに負けてしまうことは本当にもったいないことです。日本人の競技能力は、決して海外の選手と比べても遜色がありません。勝利に対して逃げずに自分を最後まで信じて戦えば、必ず結果はついてくると思います。

最後になりましたが、このような素晴らしい遠征を企画してくださった Wilsonさんをはじめ、現地のゼッコーチ、高体連の多くの先生方、本当にありがとうございました。私自身は、今後の進路のことやテニスのレベルアップに向けて、日々努力しています。今後とも、この事業に関わる機会がありましたら、よろしくお願ひします。

## 「U.Sオープン遠征で感じたことや学んだこと」

### (1) 英語（英会話）の力を身につけること。

日本選手が世界で戦うためには英語力は必須項目であることを実感しました。ホテルのフロントでも買い物でも現地の人々の英語は早く、簡単な単語でも聞き取れない状況でした。コミュニケーションが取れないこと

は、大きなストレスとなるはずです。できれば言語だけでなく、宗教や習慣など海外の文化や歴史なども学び、それぞれの国や民族に対応する理解力（異文化共生の考え方）を身につけることも必要であるように思います。アメリカやヨーロッパの入国検査が非常に厳しいのはなぜかということを知らない

「9. 11の同時多発テロ」後に生まれた選手が大半を占める中、歴史や地理を学び、国際化に対応してもらいたいと考えます。



グラウンドゼロ

### (2) 欧米の食生活について

遠征が長期にわたると食事が大変であり、その対策も重要な課題ではないかと思いました。日本食のようなバランスの良い食事がなかなか取りづらく、以前テレビのインタビューで伊達公子選手が海外遠征の際に炊飯器とお米を持参していたことを聞いたことを思い出し、NYでも自炊などができるれば…とも思いました。今回の遠征で「食べること」の重要性とともに、生活全体を通して日本の日常生活が恵まれすぎていることをアメリカに行って再認識することとなりました。

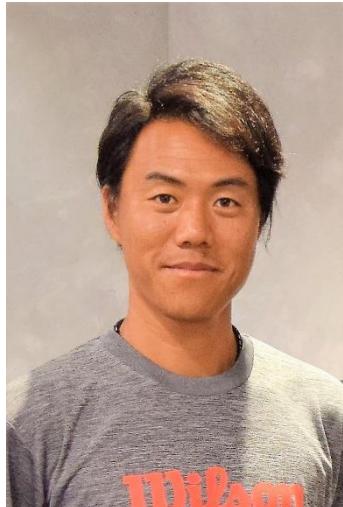
#### 【世界で活躍するジュニア選手の育成について】

日本のジュニア選手らがどうすれば世界で活躍できるのかということを考えることができました。まずは多くのジュニア選手に世界のテニスを見せる、体感するなどの経験をさせてあげたい。できれば、ゴールデンエイジ（10～12歳）にグランドスラムを先ずは自分自身の目で見てもらい、次に世界のジュニア選手たちと多くの試合をしてもらいたいと強く思いました。今回の試合では世界ジュニアらのスピードとパワーは感じましたが、日本選手との技術力やフィジカル面の差はあまり感じられませんでした。しかし、海外選手は多くの試合経験に裏打ちされた大事な局面でどのようなプレーをすれば良いのかということをすでに身につけていました。闘争心を前面に出して戦うタイプの選手も多く、メンタル面の強さも勝敗に大きく影響していたように思いました。今大会では、男子第1シードの C. Tseng 選手（台湾）や女子第3シードの X. Wang 選手（中国）などアジア系の選手が上位にシードされており、体格に恵まれた世界のジュニア選手たちに持ち前の粘りとテクニックで互角以上の戦いを見せてくれ、日本選手も必ずやれるという思いを強く持ちました。高体連として、これまで以上にこのチャンスをどのように生かして強い選手を育成するかを考えなければならぬと思います。最後になりましたが、この遠征に帯同させていただき、本当にありがとうございました。あらためてお礼申しあげます。



滋賀県高体連テニス専門部 委員長 堀池 保宏

## 「15回目の挑戦」



今回、高体連15回目のU.S.オープンJr出場という機会に監督として参加させていただくことになりました。このような貴重な経験を与えて下さった全国高体連テニス専門部に心から感謝申し上げます。また2日間、事前合宿として早稲田大学庭球部様にもお世話になり、素晴らしい環境の中で基本練習、球出し練習、試合等をさせていただき選手は最高の調整ができたと思います。改めて感謝申し上げます。本当に有難うございました。

この夏の三重インターハイで3冠を達成した白石選手は全豪オープンJr、全仏オープンJrに続きグランドスラム3回目の挑戦となりました。2大会とも予選決勝で敗れているため今回こそはという強い思いも感じられました。吉岡選手は海外での経験は少ないものの国内のITF大会に多く参加しており世界の同世代の選手達に自分がどこまで通用するのか楽しみだという雰囲気がありました。

現地到着後も舌コーチのコーディネートのもと、練習場所の確保、食事等たくさんお世話になり、おかげさまで良いコンディションで試合に臨めたと思います。残念ながら白石選手、吉岡選手ともに予選突破することができなかったため監督の力不足ではあります私が含め選手たちにも今後の課題が見つかったと思います。技術の部分だけではなく他の選手の試合に取り組む姿勢、練習前後のトレーニングなど現地に行かないと見えない部分がたくさんあったと思います。今回の大会を経て選手達が一回りも二回りも成長することを望みます。最後になりましたが全国高体連テニス専門部石原部長はじめ、アメアスポーツジャパン(株)の上田様、滋賀県高体連テニス専門部堀池委員長、舌コーチ、全ての方々に感謝致します。本当に有難うございました。

三重県立四日市商業高等学校  
テニス部顧問 金山 敦思





## US Open Juniors 2018

After many years of holding the US Open junior qualifying tournament in Flushing, Queens next to the Billie Jean King National Tennis Center, it was moved to the Cary Leeds Tennis Center in the Bronx.

It was a very unique feeling because the tournament didn't have the same overwhelming effect it usually has. If you are used to traveling overseas and have participated in grand slam junior qualifying tournaments, it may be nothing significant.

But for most Japanese high school tennis champions, it is a very rare experience to play outside of Japan and especially at a grand slam. The Bronx tournament site was a beautiful facility but the nearby neighborhood was very impoverished and felt unsafe to go out and buy food or drinks.

USオープンジュニア予選会がビリー・ジー・キング・ナショナルテニスセンターに隣接するフラッシング・クイーンズで長年行われてきましたが、それが今年度よりブロンクスにあるキャリーリード・テニスセンターに移されました。

本来USオープンがもっている感動的な雰囲気ではなかったのが不思議な感じでした。もしあなたたちが海外へ旅することに慣れていてグランドスラムのジュニア予選会に参加をしているのなら、そのような変化は感じないかもしれません。

しかし、ほとんどの日本の高校生チャンピオンにとっては日本を出て、さらにグランドスラムで試合をすることは初めてに近い経験です。ブロンクスのテニスコートは、競技施設として立派なものですが、その周辺地域には貧しい人々が多く住み、食事や飲み物などを買いに行くにも不安があるように思われる場所でした。

Japan's high school tennis association is always trying to be progressive and have been making changes to improve the experience each year. This year they decided to bring one of the player's coaches to the tournament. I thought it was a good idea because it's hard to tell sometimes how hard we can push the players during practice especially before a match. The team also went to Waseda University to play some practice matches prior to flying to NY as preparation for the tournament.

I am very honored and fortunate to say that this was my 7th time participating as the team's coordinator/coach. This year our participants were Hikaru Shiraishi and Kisa Yoshioka. It was a pleasure meeting and working with them.

全国高体連テニス専門部は絶えずその発展に向けての努力を続けており、毎年新しい取り組みを行っています。今年は選手(吉岡)を日々指導する顧問がコーチとして大会に帯同することになりました。現地で私たちが特に試合前の練習中に選手らに厳しいアドバイスをするのは難しいことなので、今回の試みは大変良い方策だと思いました。また、ニューヨークに出発する前に大会の事前準備として早稲田大学の学生と練習試合を行ってきたこともその一つです。

私は光栄なことに幸運にも今回がチームコーディネーター兼コーチとして7回目の帯同となりました。今年の参加選手は白石光と吉岡希紗でした。彼らと行動を共にできたのはうれしい限りでした。

Hikaru had entered a few junior grand slams earlier this year and had some experience playing overseas. But he also experienced some heartbreak so he was determined to make it into the main draw. He is such a fighter and managed to use his footwork, consistency, and technique to rattle his opponent to take a 5-3 lead but a lengthy rain delay took away the momentum and his opponent made some adjustments to take the first set. His opponent was in full control of the match in the second set up 5-1 and 3 match points at 0-40 but Hikaru never gave up and fought back to 4-5 but lost the next game and the match. Very often it seems that a big disadvantage the Japanese boys face is not their technique or will to win but the lack of a big serve to create easy points. It is not an easy solution since the average Japanese player is much shorter than the Europeans and Americans. But regardless, it is a necessity in men's tennis to have a big serve.

光(白石)は今年に入り、すでにグランドスラムの大会に出場しており、海外での試合を経験していました。そこで負けた悔しさが彼を本当に本戦へ上がりたいという気持ちを強くさせていました。彼には強い闘志とフットワークを駆使したプレースタイルに一貫性があり、対戦相手を動搖させるテクニックで5-3までリードしましたが、長時間の雨による中断によって対戦相手は、第1セットを十分に逆転できるようになっていました。第2セットも対戦相手から5-1リードとなり、0-40で3度のマッチポイントを迎えました。それでも光は決してあきらめずに、ゲームカウント4-5まで盛り返しましたが、試合に敗れてしましました。この敗戦からも日本の男子ジュニア選手が直面する弱点は、単にテクニックや勝ちたいというメンタル面の不足ではなく、簡単にポイントが取れる強力なサービスの欠如です。ヨーロッパ人やアメリカ人に比べて日本人の平均身長はとても低いので、これは簡単に解決できることではありません。しかしながら、素早くポイントを取ることができるビッグサーブの習得は、男子テニスにとって不可欠です。

Kisa is a powerful lefty whose style of play is very uncommon in Japan. She has great potential but her inexperience playing overseas was costly in a big tournament like this. It was to our advantage that the venue was moved to the Bronx because I think the Flushing courts would have made her quite nervous. It looked as though her opponent was a bit nervous in the start of the match and Kisa probably needed to

get an early lead to keep the pressure on but she was unable to convert on some key points and ultimately finished the match losing 10 of the last 11 games. Her movement and her serve definitely need improvement but her innocence and lack of grit seemed to be a deciding factor. Many of these girls are 14~15 years old, well travelled and are very hungry for success. I think the mind set of a 17~18 year old high school senior is not the same and their priorities are shifted towards college.

希紗(吉岡)のプレースタイルは、日本では稀な力強い左利きを生かしたものでした。彼女は素晴らしいポテンシャルを持っていますが、海外での試合経験の不足から本来のプレーをさせてもらえたなかったように思えます。彼女にとっては試合会場がブロンクスに変更になったのは幸いでした。従来の会場であれば、もっと緊張することになったでしょうから。希紗の対戦相手は、試合開始直後は少し緊張していたので、早めにプレッシャーをかけ、序盤で十分なリードが必要でした。しかし、試合の流れはそのような展開にはならず、勝利に必要な11ゲームのうち10ゲームを連続で失い、敗れてしまいました。彼女のフットワークとサービスはこれからも改善が必要ですが、それ以上に試合の組み立てに関する戦略と強いメンタルの不足が敗因であるようにも思えました。この大会に出場している世界の女子ジュニア選手の多くは14歳から15歳であり、世界各地を転戦し、勝利に対してもとても貪欲です。一方、日本の17、18歳の高校生の内面はというと大学へ進学するということで頭がいっぱいになっているようです。

2018 was a series of first time experiences. New teachers, new players, and a new venue but overall, it was another great learning experience.

We are so blessed to have 2018 US Open champion Naomi Osaka and semi-finalist Kei Nishikori in this golden age of tennis for Japan. Both are an inspiration and role model for the sport. Let's hope that we can find the next world class tennis player with great potential in Japan's high school tennis at an early age so that we can motivate and help guide them to their dreams!

2018年は、初めてとなる経験の連続でした。新しい先生方に新しい選手たち、それから新しい会場における試合などです。しかしながらそれらすべてが素晴らしい学びの体験となりました。

2018年のUSオープンは、大坂なおみ選手がシングルスで優勝したことや錦織圭選手が準決勝に進出したことなど日本のテニス界にとって大変すばらしい年となりました。両者は日本のプレーヤーに大きな刺激を与える存在であり、スポーツ界のお手本です。日本の高校テニスにも素晴らしい可能性を秘めた若い選手がたくさんおり、その中から次のワールドクラスとなりうる選手が登場することを期待しましょう。そしてそのような彼らの夢を支え、実現へと導くサポートができますように！

Takashi Zetsu (舌 隆史)